

# UNEP・2009年のハイライト——1年を振り返る

## Highlights of 2009 - The Year at a Glance

<http://www.unep.org/Documents.Multilingual/Default.asp?DocumentID=606&ArticleID=6438&l=en>

2009年は、環境問題の込み入った年でした。2009年“国際ゴリラ年”に始まり、12月のコペンハーゲンでの環境会議のためのキャンペーン“Seal the Deal！（協定に合意を！）”に至るまで、過去12ヵ月のおもなUNEPの活動を概観してみましょう。

### 1月

- ・2009年は、アフリカで急速に減少するさまざまなゴリラ種に人々の関心を集めるために、「国際ゴリラ年（International Year of the Gorilla）」と宣言された。その目的はアフリカの全土にわたるゴリラ保全のために、人々の意識を高め資金を集めることであった。

### 2月

- ・シドニー、ブリスベンを含むオーストラリアの都市や企業は、UNEPが主導するCNネット（Climate Neutral Network）に参加し、カーボン排出量を削減することを公約した。CNネットは2009年の年間を通じて拡大し、参加数は200ほどに達している。その中には10ヵ国、3地域、16都市、ほぼ100の民間企業、国連機関、及び主要なNGOなどが含まれる。
- ・有毒な水銀汚染源に関する国際的な取り締まりが、UNEP管理理事会の終わりに環境大臣たちによって合意された。140ヵ国を超える国々によって取り上げられたこの画期的な決定は、数億の人々の生活から深刻な健康への脅威を取り除く発端となるものである。
- ・UNEPは、2009年の年鑑を刊行した。そこに示されているのは厳しい現実と懸念される傾向である。同時に、すでに途上国や先進国で試験的に導入されつつある革新的な想像力に富むアイデアがいくつか特記されている。
- ・UNEPの「食糧危機報告書」では、21世紀における飢饉のリスクと食糧不足の悪化への7項目の対策が述べられている。
- ・この月の終わりに、アフリカのいくつかの国々から集まった貧困にあえぐ都市部の若者たちが、「キリマンジャロ・イニシアティブ」と名付けられたNGO団体と一緒に“UNite to Combat Climate Change（気候変動と闘うために国連（UN）と一体になって）”キャンペーンの垂れ幕を掲げ、キリマンジャロに登った。

### 3月

- ・“変わりゆく世界における水問題”と題する「国連世界水発展報告書」が刊行され、そこには水資源への圧力が増しつつあることが記述されている。
- ・UNEPは3月28日の世界規模のアースアワー（Earth Hour＝3月の最終土曜日に1時間の消灯を促すイベント）に参加し、気候変動問題についての意識向上のため1時間の消灯を実施した。

## 4月

- ・企業や市民社会、国際組織及び政府機関から 700 人を超えるリーダーたちが、4月 22～23 日にパリで行われた環境のためのビジネス・グローバル・サミットで会合し、地球規模でのグリーン成長を強化する方法について議論した。
- ・ガザ地区とイスラエルへの訪問中、UNEP は一貫してグリーン経済を推奨し、両地区住民の間の協力を要請した。
- ・UNEP は、2009 年地球大賞（Champions of the Earth）を発表した。受賞の式典は、アースデーにパリで行われた。  
受賞者は以下の通り：ノルウェー環境大臣のエーリク・ソールハイム（Erik Solheim）氏、熱帯雨林及び気候運動家ケビン・コンラッド（Kevin Conrad）氏、写真によって社会の意識を高める先駆者であるヤン・アルテュス＝ベルトラン（Yann Arthus-Bertrand）氏、風力発電の企業家であるトゥルシー・タンティ（Tulsi Tanti）氏、バイオミクリー（＝生態模倣学）の専門家ジャニン・ベニユス（Janine Benyus）氏、リサイクルの革新者ロン・ゴネン（Ron Gonen）氏、そして、若者支援を行うエチオピアの団体テナ・ケベナ（Tena Kebena）。世界に名高いフランスのカメラマン、ベルトラン氏は、ここで UNEP の親善大使にも任命された。
- ・4月末、潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は、世界規模のキャンペーン“Seal the Deal！（＝協定に合意を！）”を発表し、2009 年 12 月にコペンハーゲンで行われる国連気候変動会議で、公正でバランスのとれた実効性のある協定に合意するよう要請した。

## 5月

- ・モルディブ共和国は気候ニュートラルネットワーク（CN Net＝Climate Neutral Network）に参加し、10 年以内に世界初のカーボンニュートラル（＝炭素排出ゼロ）な国家になることを公約した。
- ・これまでで初めて、5 人のリーダーたちがグリーン・スター賞（Green Star Awards）を獲得。その中ではブラジルの科学支援センターと、一流のスイスの研究所が、それぞれ団体として受賞している。グリーン・スター賞とは、UNEP、国連人道問題調整事務所（OCHA）、グリーンクロスインターナショナル（GCI）の共同イニシアティブで、世界中の環境災害に対する予防や準備、そしてその対応に尽力してきた人々を表彰するものである。
- ・世界の国々は、化学薬品の使用に関して重大な合意に達した。ストックホルム条約を批准している各国は DDT の使用減少に同意し、さらに 9 つの残留性有機汚染物質を条約に加えることを決定した。これらの物質は特定の危険な殺虫剤や工業薬品などに含まれていて、人体の神経系と免疫システムに打撃を与え、がんや生殖機能障害を引き起こし、健康な幼児や子どもの発育を妨げ、さらには人間を殺すこともできる。
- ・5月中旬に開催された世界海洋会議（World Ocean Conference）での重要なメッセージとして、UNEP は世界の海洋を保全することの重要性を強調した。UNEP は、海洋汚染の 80%は工場からのものであると推定し、海洋輸送にも問題があるとした。
- ・2009 年の国際生物多様性の日（International Biological Diversity Day）に、UNEP は世界中で起きている侵入生物種に関する問題を提示した。たとえば水ヒアシンスは、50 ヶ国以上に侵入して繁殖し、莫大な経済損失を与えた。

## 6月

- ・その日この地球上では、小さな辺境の村から無秩序に広がった首都に至るまで、何千人もの人々が世界環境デー（＝6月5日）を祝った。すべての大陸で、子どもたちも、企業も、市長や州の長官も、みな国連イベントの垂れ幕のもと、気候変動と闘おうと団結し、潘基文・国連事務総長の呼びかけ“Your Planet Needs You（地球はあなたを必要としている）”に耳を傾けた。
- ・“地球を癒す”メキシコの古代マヤ文明の一連の儀式に呼応するかのよう、世界環境デーの当日、メキシコのカルデロン大統領は、気候変動と闘うための政府の画期的なプランを発表した。それには新しい保護区の設置も付け加えられている。財務大臣と環境大臣を含む数人の主要閣僚に脇を固められながら、メキシコ大統領は多岐にわたるスピーチの中で、国として温室効果ガスを自発的に年5千万トン削減すると表明した。
- ・2009年より、国連は毎年6月8日を「世界海洋デー（World Oceans Day）」に指定すると公式に宣言した。この日は世界の海に敬意を表す機会を与え、海洋が我々に供給してくれる産物や海洋生物そのものを称える日である。さらに、海洋がまた国際貿易のための海上交通輸送路を提供してくれているという本質的な価値に感謝する日でもある。地球全体に広がる汚染と魚の乱獲の結果、大半の魚種でそれぞれの総数の劇的な減少が起こっている。

## 7月

- ・世界森林農業センター(ICRAF)と UNEP は、“グリーン”農業のやり方を広い範囲で取り入れるよう呼びかけた。これは急速に増えつつある世界の人口にとって、いくつもの利点がある——すなわち気候変動との闘いや貧困の根絶に役立つばかりか、食糧の増産や持続可能な木材資源をもたらしてくれる。またこれは、2009年8月23～28日に開催された第2回森林農業国際会議で発表された。

## 8月

- ・これまでで最大のスケールと思われる、気候変動に関するまさに地球規模の若者たちの集会在、大韓民国で開催された。10～24歳の年齢枠に入る700人ほどの若者たちが出席し、確固たるビジョンとリーダーシップの必要性を強調した。集会の後で、出席した青少年たちから世界のリーダーたちに個人宛ての書簡が送られた。

## 9月

- ・マウ森林複合林（Mau Forests Complex）を守るための数100万ドル規模の援助要請が、UNEP主催のパートナーズフォーラムでケニア政府によって公表された。この要請は、40万ヘクタールにも及ぶケニア最大の閉鎖林冠の森林生態系であるマウ複合林——ケニア山とアバーディアを合わせた大きさ——を再生するための資金を集めることを目的にしたものである。
- ・潘基文・国連事務総長は、気候変動の影響による氷の溶解を見るために北極を訪問した。
- ・9月20日、史上最も注目されるトップモデルの一人であるブラジル生まれのジゼル・ブンチェン（Gisele Bündchen）は、UNEP親善大使に任命された。親善大使として、ジゼルはUNEPの使命である環境意識の向上を支援し、人々の環境保護活動を促進する。
- ・UNEPは初めて、9月21～25日の期間を世界環境週間（Global Climate Week）とした。放送関係者、ハリウッドスター、政治家やモデルたちが、“Seal the Deal！”キャンペーンに参加した。
- ・2006年に開始された10億本の木キャンペーン（Billion Tree Campaign）は、70億本を記録した。これは、地球のひとりひとりが1本の木を植える数と同じである。そして2009年12月までに、7,445,831,185本が実際に植樹され、公約された分を含めると9,105,964,414本になる。

## 10月

- ・新しい「迅速対応レポート（Rapid Response Report）」は、カーボン排出（世界中の輸送分野の1年分のカーボン排出量の半分に等しい量）が、マングローブや塩湿地や海草などの海の生態系によって回収・貯留されつつあると概算した。このレポートは「ブルーカーボン：カーボンを固定する健全な海洋の役割」と題され、UNEPほか国連食糧農業機関（FAO）や、ユネスコの政府間海洋学委員会が共同で作成したものです。
- ・10月半ばにUNEPは、その世界本部でアフリカ諸国の議員たちの会議を主催した。この会議は「気候変動：ひとつのアフリカ、ひとつの声、ひとつの立場」と名付けられた。首脳会談にはアフリカ大陸全域から63人を超える議員たちが出席した。

## 11月

- ・さらに5ヵ国——アルゼンチン、カンボジア、エクアドル、ネパール、スリランカ——が、国連の「森林の減少・劣化からの温室効果ガス排出削減（UN REDD）」計画に参加した。

## 12月

- ・国連気候変動会議の前に、400人以上の交渉参加者たちは、コペンハーゲンまで気候特急（Climate Express）という列車に乗った。このカーボンフリーの気候特急は、UNEPと世界的な環境保護団体WWF（世界自然保護基金）のサポートで、国際鉄道連合（UIC）によって編成された。
- ・数千人がバンコクからワシントンへ、そしてカメルーンからウラジオストックへの移動中に、「Seal the Deal」キャンペーンに参加し、垂れ幕に署名した。この幕は気候請願書やイベントとして設置された迷路の仕切りの一部に使われ、コペンハーゲンでの新しい気候協定に合意するよう各国政府に訴えかけた。「Climate Maze（＝気候迷路）」と名付けた天幕と、隣接の「Hard Rain（＝辛い雨）」と題する環境写真展が、コペンハーゲンの技術・環境管理局行政長官クラウス・ボンダムならびにUNEP事務局長アッヘム・シュタイナー、そしてHard Rainプロジェクトのクリエイターであるマーク・エドワーズによって公式に開かれた。
- ・UNEPは「国連気候問題の壁」と称するパネルを設け、気候変動が世界中の人々の生活にいかに関与しているかを示す100以上の証言や実生活の体験談を記述した文書の実物を、そこにはめ込んだ。
- ・コペンハーゲン会議の間に、ノーベル平和賞受賞者であり10億本の木キャンペーンの後援者ワンガリ・マータイ女史が、国連の平和メッセンジャーに任命された。
- ・コペンハーゲンの気候会談の終わりに、各国はある合意に達して、「コペンハーゲン協定」と表題を付けられた文書に“留意すること”に同意した。協定の中には、気候変動に取り組む上での森林の重要な役割を認め、先進諸国からの財源の供出を実現するためのメカニズムを即時設立することとし、その上でREDD+を公式に承認する必要があることなどが書かれている。
- ・国連事務次長ならびにUNEP事務局長のアッヘム・シュタイナーは、以下のように述べた。「これは多分、誰かが望んでいたような大きな進展ではなかったと思われます。しかしそれは時折ありうると見られた決裂でもありません。先進諸国の意欲的な姿勢は、ある意味では早急に試されることになるでしょう。もし協定に約束された資金が素早く、そして公表されたレベルまで供給されれば、新しい国際的な気候変動ポリシーが生まれるかもしれません」